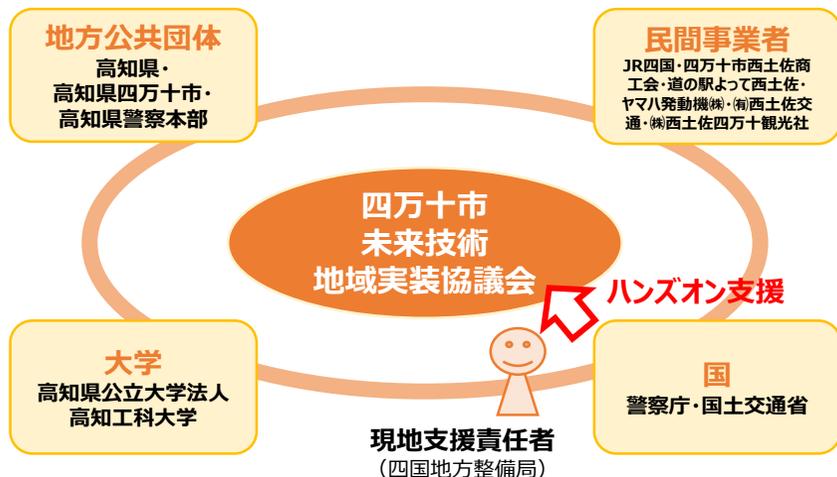


課題

- 人口減少や少子化、モータリゼーションの進展、労働力不足、新型コロナウイルスの影響など、地方の公共交通の経営は非常に厳しい状況にあり、地域における移動手段の維持・確保が課題
- 運転免許返納をする高齢者や訪日外国人旅行者の増加など、公共交通の重要性は高まっている

推進体制



課題解決に向けた取組

(写真・図：四万十市提供)

西土佐地域の基幹的公共交通であるJR予土線の江川崎駅と道の駅「よつて西土佐」などの地域拠点施設を自動運転でシームレスに繋ぐことにより、地域住民や観光客などのファーストワンマイル・ラストワンマイルを確保する利便性の高い地方に合ったサステナブルな公共交通を提供する

併せて、交通結節点となる江川崎駅で観光機能を向上する等、人が集う賑わいのある駅を目指す

- ・自動運転サービスを導入し、鉄道と繋ぐことによりファーストワンマイル・ラストワンマイルを確保
- ・交通結節点となる駅を整備し、バリアフリーのシームレスな乗継を可能に
- ・更に、観光機能を向上することにより人が集う賑わいのある駅へ

実装イメージ



自動運転を
活用した
予土線のあ
り方の検討

導入予定の自動運転車両
(新たなモビリティの導入)

<交通結節点となる江川崎駅>

- ・鉄道と自動運転のシームレスな乗継
- ・観光機能向上による駅の賑わい作り

2021年度の
主な取組

- 令和4年2月15日に第1回西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議を開催

取組内容

(写真・図：四万十市提供)

第1回西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議を開催（2022年2月15日）

- 2022年2月15日に第1回西土佐地域自動運転モビリティ実証実験企画会議を開催
- コロナウイルス感染症拡大防止の観点からWEB方式での開催
- 実験ルートは、自動走行区間をJR江川崎駅～道の駅よつて西土佐間とした
- 実験時期を令和4年夏頃とした
- 実験車両は全国2例目の磁気マーカタイプとした

実験車両



車両に搭載した磁気センサで
道路に埋設した磁気マーカを検知しながら走行

